

幻の魚は生きていた

「幻の魚」新聞を作るう

文章の要旨を捉えて短くまとめる

学習のねらい

- 中心となる文に着目しながら、文章の要旨を捉える。
- 筆者の考えを基に、人間の生活と生き物や環境との関係について考えを深める。

学習の流れ (全5時間)

第1次
(1時間)

文章を読み、構成をつかむ。

- 本文やインタビューの内容を新聞にまとめるという課題を理解する。
- 全文を通読し、興味をもった内容を発表し合う。
- 文章の構成を確認し、小見出しをつける。A B

第2次
(3時間)

文章の要旨を新聞形式でまとめる。

- 漢字フラッシュカードで本文中の漢字の読みを確認する。
- 「文章のおおまかな内容を捉えよう」で全体の内容を確認する。C
- 本論部分の要旨を記事にまとめる。D
- インタビューの内容を記事にまとめる。E F

第3次
(1時間)

環境に対する自分の考えを書く。

- この文章から、人間と生き物との関わりについて考えたことを書いて「社説」としてまとめる。
- 新聞を展示して読み合う。

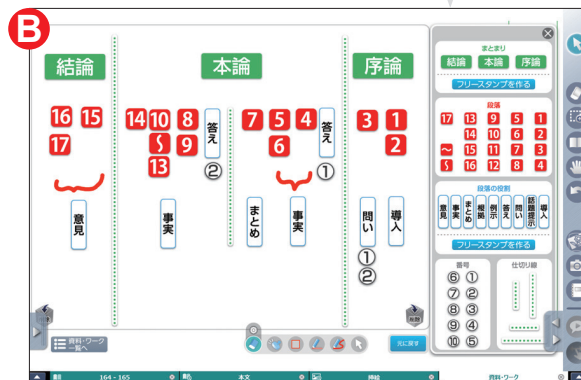
「国語デジタル教科書」活用の具体例

第1次③ 文章の構成を確認し、小見出しをつける。



資料・ワーク：「全文表示」

資料・ワーク：「文章の構成を考えよう」



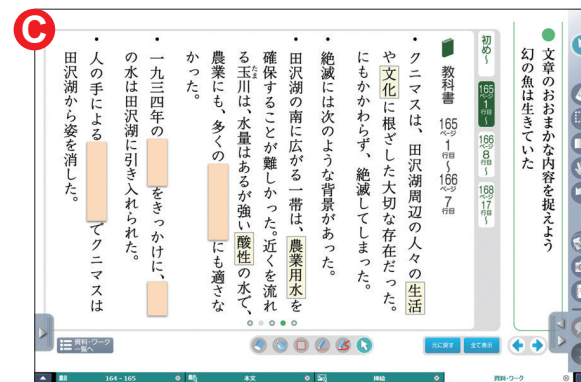
生徒の反応 文章全体を俯瞰する

「全文表示」で文章を俯瞰することによって、文章構成が明確に理解できた。また、「文章の構成を考えよう」は生徒の意見を聞いて、スタンプを動かしながら進められたので、問題点が明確になり、理解も早かった。

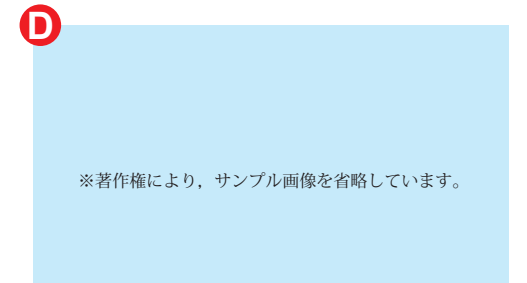
全文を通読した後、説明文全体の構成を捉えるために「全文表示」(A)で、「序論」「本論」「結論」に色分けをした。

次に、その構成を「文章の構成を考えよう」(B)を使って確認した。「文章の構成を考えよう」では、段落分け以外に「導入」「事実」「意見」などのスタンプがあるので、それらも活用しながら段落の役割を考えた。そのうえで、それぞれのまとまりの小見出しを各自で考えた。

第2次②③ 全体の内容を確認し、本論部分の要旨を記事にまとめる。



資料・ワーク：「文章のおおまかな内容を捉えよう」



資料・ワーク：「クニマス再発見のニュースを伝える新聞記事」

本時では、本論部分の要旨を捉えて、適当な文章で要約することを学ぶ。そこで、この文章を新聞形式でまとめる学習を行った。新聞紙面にまとめるためには、①紙面に入れる内容の選択、②情報の優先度や読む順番に沿ったレイアウト(配置)の吟味、③見出しなどの工夫、④写真や図の工夫が必要である。

まず、教科書を読み返した後で「文章のおおまかな内容を捉えよう」(C)で内容を確認した。その後、資料「クニマス再発見のニュースを伝える新聞記事」(D)を提示し、新聞記事の特徴と書き方を確かめた(見出し、リード、本文と写真の構成、重要なこ

生徒の反応 実際の資料で活動が意欲的に

収録資料の新聞記事を示すと、教科書の内容が実際にニュースになっていたんだということに驚き、活動が意欲的になった。

とから書く「逆ピラミッド」の構成など)。紙面の割り付けを考え、どの内容をどの程度圧縮して書き換えればよいか、各自で工夫を凝らして考えた。

第2次④ インタビューの内容を記事にまとめる。



資料・ワーク：「西湖におけるクニマス保全の取り組み」

資料・ワーク：「田沢湖におけるクニマスと人々とのつながり」

このデジタル教科書では、実際に現地に行って取材した動画が資料として掲載されている。この貴重なコンテンツを教科書本文と関連付けて理解していくことができるように、生徒たちが作成する新聞に必ずインタビューの内容を1つ入れることにした。

動画資料は、田沢湖周辺に代々暮らす住民に聞いたクニマスと生活との関わりについてのもの(E)と、西湖で取り組まれているクニマス保全の活動についてのもの(F)である。生徒たちはメモを取りながらインタビュー内容を整理し、見出しを考えて記事にした。

生徒の反応 目的意識をもって動画を視聴

動画をただ見るだけでなく、それを記事にするという明確な目的意識がある活動であったために、生徒たちはインタビューを聞き逃さないように真剣にメモを取っていた。

国語デジタル教科書を活用した感想

教科書の文章だけでなく、新聞記事やインタビュー映像など複数のメディアでさまざまな事実を示すことによって、より実感をもって、多角的に教材を読み込むことができた。また、新聞記事そのものを示すことができたので、新聞の構成などの指導も効果的に行うことができた。